田村徳治　ゆくむら　政治學者、法學博士。明治十九年七月十四日秋田縣生れ、昭和二十二年十一月二十五日歿（一八八六―一九五八）。

著書『哲學の一領域としての對象論の研究』（大正十一年三月一日内外出版株式會社）、『思想問題解決の合理的基礎』（昭和一年四月二十五日京都・弘文堂書房）、『京大事件』（共編、昭和八年十一月二十五日岩波書店）、『學問と世界の眞實』（昭和十二年十二月一日立命館出版部）、『知識人へ送る』（昭和十五年五月十日同文館出版部）、『日本と新文化建設』（昭和十八年四月二十日同文館出版部）、『日本興隆の理論と方策』（昭和二十七年一月二十日京都・太平會）等。

京大事件

京大事件の自傳的記録

京大事件

七人共編

佐々木惣一　末川博　瀧川幸辰
田村徳治　恒藤恭　宮本英雄　森口繁治　編

京大事件は何であったか
京大事件は如何に闘はれたか
京大事件は何を表徴するか

最近の社會的文化的出來事にして「京大事件」の如く由々しく重大なるものは少なからう。强權の壓迫に抗して學園の自治と研究の自由とを防衛する爲に如何に果敢なる闘爭は展開されたか。不幸にして敗れたりと雖もこの戰は我國に於ける思想の自由闘爭史上に永く輝くであらう。京大事件は單に一大學一學部の過去の問題でない、全大衆現在の現實の問題はこの一事件に於て最も明瞭に表徴されてゐる。公正なる道理に據り、烈々たる正義感に基き、死を賭して戰ひたる七教授のこの事件に關する述作全部を寛めて本書は成つた。本書は京大事件の全貌のいはば自敍傳的記錄であると共に、渾沌暗冥たる現時の思想界に力强く呼びかける理性の聲である。是によつて學園未曾有の出來事たる京大事件の眞實の姿とその社會的歷史的意義とを明確に認識されんことを、我等は世の有識者諸氏に要請する者である。